

甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価書

令和6年1月25日(木)

第2回 学校評議員・学校関係者評価委員会合同会議

実施日：令和6年1月25日(木)午後4時～

会場：校長室

参加者：(学校評議員兼学校関係者評価委員)

河西壽人 保延浩子 小宮山齊 松岡栄子 本間悦子
(学校関係者評価委員) 水谷幸平
(学校側) 校長 山本成利 教頭 河西 修

I 学校側から提案された内容

令和5年度自己評価、令和5年度生徒用アンケート集計結果表、令和5年度保護者アンケート集計結果表。(いずれもR4とR5を比較できるもの)

II 協議された主な内容

自己評価シート及び生徒アンケートの集計結果、保護者アンケート集計結果をもとに学校の現状(成果と課題)や取組等について情報を共有・協議し、学校・家庭・地域の連携・協力により学校運営の改善にあたる。

<学校関係者評価書>

I 全体評価(肯定的回答率(A評価+B評価))

- 「I 学校教育目標」の項目では、5項目のうち4項目で95%以上である。
- 「II 学校運営」の項目では、8項目のうち7項目で90%以上である。
- 「III 学習指導」の項目では、7項目のうち6項目で90%以上である。
- 「IV 生徒指導」の項目では、6項目のうちすべてで90%以上である。
- 「V 地域との連携」の項目では、6項目のうち5項目で90%以上である。
- 「VI 学校の特色」の項目では、4項目のうちすべての項目で95%以上である。
- 「VII 創甲斐教育」の項目では、3項目のうちすべての項目で90%以上である。

<自己評価より>

- ・39の質問項目によるアンケート形式で、すべての項目において、肯定的回答率(A評価+B評価)が70%以上であった。
- ・全39項目中、Aが18項目、Bが最頻値で21項目であった。
- ・肯定的回答率が高いものは、III-1「あなたは児童生徒の学びの意欲を喚起する授業をおこなっている」、IV-5「あなたは問題行動の早期発見・早期対応ができています」である。また、肯定的回答率が低い項目はV-1「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導をおこなっている」であった。

<生徒アンケートより>

- ・23の質問項目によるアンケート形式で、肯定的回答率が高かったものは、23項目中11項目あった。特に高いものは5「先生はよく勉強を教えてくださいか」、6「国語の授業の内容はわかりますか」、12「学校のきまりや約束ごとを守っていますか」、14「清掃をしっかりとしていますか」、27「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の5項目で95%を超えている。
- ・肯定的回答率が高くないものとして、15「部活動へ積極的に参加していますか」、23「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、24「将来の夢や希望を持っていますか」となっており、生徒の実態として受け止め、分析をし、改善していく必要がある。特に「将来の夢や希望」を抱き、毎日の生活に取り組む生徒が増加していくよう支援をしていきたい。

<保護者アンケートより>

- ・肯定的回答率が高かったものは、23項目中12項目あった。
- ・回答から低いものとして「地域の行事への参加」がある。また、昨年度に比べ低くなっているのが24「ICTを活用した授業」、13「家庭での自主学習」であり、校内研究等、力を入れて取り組んだ内容であるだけに原因を分析し、改善していく必要がある。

II 特徴

- ① 学校経営方針については全5項目中4項目で95%以上となった。学校経営方針が学校教育目標を踏まえたものになっており、多くの教職員は学校長の経営方針に基づいて、協働参画意識を持ち、意志統一された教育活動を行っている。
- ② 学校運営については全8項目中すべてが肯定的回答率80%以上となった。肯定的評価が比較的低いものは職員間のコミュニケーションに関してであった。
- ③ 学習指導については全7項目中、肯定的回答率が80%以上となったのは7項目中全てとなった。基礎基本の定着を重視し、学ぶ意欲を育てる授業づくりや民主的な集団づくりを多くの教職員が継続的に行っている。また、ICTを効果的に活用した授業、フリートークをはじめとする集団づくりやコミュニケーション力の向上のための取組を充実させ協働的な学びを取り入れた授業実践が行われている。
- ④ 生徒指導については全6項目全てが肯定的回答率90%以上となり、問題行動への早期発見・早期対応が100%となった。いじめ、不登校等の早期発見・早期対応、支援の内容や課題は、生徒指導部会を中心に情報交換が詳細に実施されている。個別の対応が細かく実施されている。また、教職員は、生徒理解のために生徒と積極的にコミュニケーションをとっている。(生活記録ノートや休み時間の会話など)また、規範意識を育む指導や生き方教育にも意欲的に取り組んでいる。
- ⑤ 地域との連携について全6項目中5項目が肯定的回答率90%以上となっている。低かったのは「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」で71.4%であった。
- ⑥ 学校の特色に関して4項目中すべてが肯定的回答率80%以上となった。リサイクル活動などに意欲的に取り組み、朝の読書活動を大切にするなど、継続した取組が培われてきた。今年度は授業参観、年輪祭、合唱祭、鍛錬などへの保護者の参加協力などのお陰で実り多い有意義なものとなり、これまで以上に保護者との連携や協働が推進された。
- ⑦ 創甲斐教育について3項目中すべてが肯定的回答率90%以上となった。

III 今後の課題として意識されたいこと

- ・「一人一人が大切にされる学校」を目指し、ユニバーサル制服の選定を、令和7年度からの導入を目標に先生方、保護者・生徒、地域の意見を踏まえながら実施していく。(校長)
- ・ICTを授業で積極的に活用しているが保護者の認識との乖離がある。授業参観においてデジタルツールの活用を見ることができたが今後家庭でのタブレット使用を保護者も巻き込み、学力向上に活用してもらいたい。(水谷)
- ・タブレットの配付数が限定され故障も多い。校内にはWi-Fiがない場所もある。リモート授業のためには複数端末が必要である。環境面の充実について引き続きお願いをしていきたい。(校長)
- ・先生方は積極的にICTを活用している。現状をおききして途切れることのない環境面でのバックアップを保護者・評価委員は強く市に要望していきたい。(河西壽)
- ・小学校ではタブレットを連絡帳がわりに使用し、子どもたちの日頃の取組が参照できるようになっている。中学校でも更にタブレットの活用を工夫してもらいたい。(松岡)
- ・学校通信が各自自治体に配付されれば、中学校の実践がより地域に浸透していく。ホームページの活用と絡めて工夫していただければありがたい。(水谷・松岡・保延)
- ・生徒達は教材が非常に多く、机の上に置き場がない。改善のために教師から適切な指導を実施してもらいたい。(保延・河西壽)
- ・保護者の調査からICT活用について低い回答がでてきている。コロナ禍後のリモート授業実施の必要性が減少したためだと考える。実際には授業参観で結果を生徒同志で共有し、家庭で使用している場面をみているので意外だった。多くの保護者に取組がより実感できるように学校は工夫をしてほしい。(本間)
- ・生徒達のタブレットやスマホの使用と学習時間の関係を見ると、学習時間や身体を動かす時間の使い方に不安を感じる。時間の有効な使い方を家庭と学校は今後検討し指導に生かす必要性を感じた。(小宮山)
- ・先生方の生活を見ると多忙であり心配である。自分事として意識改革を実施し、公私のバランスをとることが、ひいては子どもたちの教育の充実に繋がると考える。(水谷)
- ・生徒の評価から先生方の授業実践や生活指導の取組が実を結んでいることがわかる。先生方には自信をもって今後も取り組んでもらいたい。(河西壽)

